



概要

この章は、次の項で構成されています。

- [Cisco UCS B200 M6 ブレードサーバ \(1 ページ\)](#)
- [外部機能の概要 \(3 ページ\)](#)
- [フロント メザニンストレージモジュールオプション \(6 ページ\)](#)
- [リア mLOM およびメザニン接続 \(7 ページ\)](#)

Cisco UCS B200 M6 ブレードサーバ

Cisco UCS B200 M6 ブレードサーバは、Cisco UCS 5108 ブレードサーバシャーシ用に設計されたハーフ幅ブレードサーバです。1 台の UCS 5108 シャーシには最大で 8 台の UCS B200 M6 ブレードサーバを設置できます。必要に応じて、Cisco UCS ブレードサーバの他のモデルを混在させて使用することもできます。サーバは、次の機能をサポートしています。

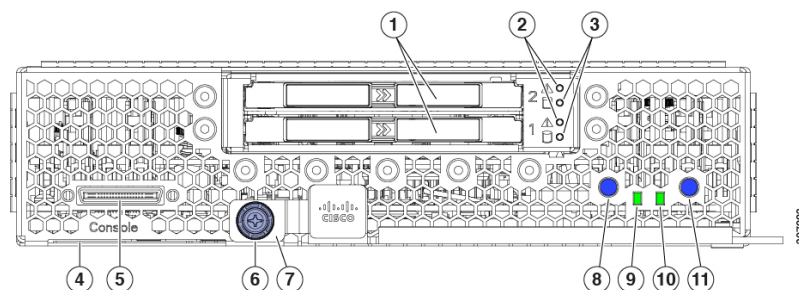
- 第 3 世代 Intel Xeon スケーラブル CPU ファミリー用の 2 つの CPU ソケットは、1 つまたは 2 つの CPU ブレード構成をサポートします。
- 最大 32 個の DDR4 DIMM (CPU あたり 16 ソケット/8 チャンネル)。
- Intel Optane パーシステント メモリ 200 シリーズ DIMM のサポート
- 次のオプションを備えたフロント メザニンストレージモジュール X 1
 - 2 つの 7 mm SATA SSD をサポートする Cisco FlexStorage モジュール。12G SAS コントローラチップは、2 つのドライブにハードウェア RAID を提供するモジュールに含まれています。
 - 2 つの 7 mm NVMe SSD をサポートする Cisco FlexStorage モジュール。
 - モジュール「1」とモジュール「2」の 2 つのミニストレージモジュールをサポートする Cisco FlexStorage モジュール。各ミニストレージモジュールは、オンボード SATA RAID コントローラチップを含む SATA M.2 デュアル SSD ミニストレージモジュールです。各 RAID コントローラチップは、2 つの SATA M.2 デュアル SSD モジュールを管理します。

- ブレードの検出に必要なリア mLOM。この mLOM VIC カード（たとえば、Cisco VIC 1440）は、リア メザニンスロットのパススルー Cisco UCS ポート エクスパンダ カードで使用すると、ファブリックごとに 20G または 40G の接続を提供できます。
- オプションで、リア メザニンスロットに Cisco VIC カード（Cisco VIC 1480 など）またはパススルー Cisco UCS ポート エクスパンダ カードを装着できます。



(注) コンポーネントのサポートは、シャーシの電源設定の制限に従います。

図 1: Cisco UCS B200 M6 ブレードサーバのフロントパネル



1	Cisco FlexStorage モジュール、ドライブ ベイ 1 および 2 を表示	2	各ドライブのディスク ドライブ ステータス LED。
3	各ドライブのディスク ドライブ アクティビティ LED	4	アセットプルタグ
5	ローカル コンソール コネクタ	6	ブレード イジェクタの取り付けネジ
7	ブレード イジェクタ ハンドル	8	ブレード電源ボタンおよび LED
9	ネットワーク リンク ステータス LED	10	ブレード状態 LED
11	ロケータボタンと LED		



(注) アセットプルタグは、フロントパネルから引き出されるプラスチック製のブランク タグです。独自のアセットトラッキングラベルをアセットプルタグに追加することができ、サーバの本来のエアフローを妨げません。

外部機能の概要

ここでは、ブレードサーバの外部からアクセス可能な機能について説明します。

LED

サーバのLEDは、ブレードサーバがアクティブモードかスタンバイモードか、ネットワークリンクの状態、ブレードサーバの全体的な状態、およびサーバがロケータ ボタンから青色に点滅するロケータ ライトを表示するように設定されているかどうかを示します。

リムーバブルドライブには、ハードディスクのアクセス アクティビティとディスクの状態を示すLEDがついています。

モジュールの前面プレート上のこれらのLEDの位置については、ブレードのイメージを参照すると役立つ場合があります。 [Cisco UCS B200 M6 ブレードサーバ \(1 ページ\)](#)

表 1: ブレードサーバ LED

LED	カラー	説明
ブレード電源ボタン/LED (前面プレートの図では 8)	消灯	電源がオフです。
	グリーン	主電源の状態。電力はすべてのサーバコンポーネントに提供され、サーバは正常に動作しています。
	オレンジ	スタンバイ電源の状態。電力はサーバの管理を維持できるようにサービスプロセッサにのみ供給されます。 (注) 前面パネルの電源ボタンはデフォルトでは無効になっています。UCS 管理ソフトウェアインターフェイスを使用して再度有効にすることができます。有効にした後、前面パネルの電源ボタンを押して放すと、サーバは 12 V 主電源を正しくシャットダウンし、スタンバイ電源状態になります。前面パネルの電源ボタンからスタンバイ電源をシャットダウンすることはできません。ソフトウェアインターフェイスからサーバに電源を投入する方法の詳細については、UCS Manager または UCS Intersight Managed Mode の設定ガイドを参照してください。

LED	カラー	説明
ネットワークリンクステータス（前面プレートの画像では 9）	消灯	アップしているネットワークリンクがありません。
	グリーン	1つ以上のネットワークリンクがアップしています。
ブレードヘルス（前面プレートの画像では 10）	消灯	電源がオフです。
	グリーン	通常動作中です。
	オレンジ	マイナーエラー、劣化状態。 劣化状態の例： <ul style="list-style-type: none"> • 電源冗長性の損失 • IO モジュールの冗長性が失われました • サーバ内のプロセッサの不一致（サーバが起動できる場合） • デュアルプロセッササーバのプロセッサの障害（サーバが起動できる場合） • メモリ RAS 障害（メモリが RAS 用に設定されている場合）。 • RAID 構成内でのドライブの障害。
	オレンジに点滅	重大なエラーです。 重大な状態の例： <ul style="list-style-type: none"> • ブートの失敗 • 修復不能なプロセッサまたはバスエラーが検出された • 致命的で修正不可能なメモリエラーが検出された • 両方のドライブが失われました • 過熱状態
ロケータボタン/LED（前面プレートの画像では 11）	消灯	点滅が有効化されていません。
	1 Hz での青の点滅	選択されたブレードの位置を特定するための点滅。LEDが点滅していない場合、そのブレードは選択されていません。点滅状態のときには、UCS 管理ソフトウェア インターフェイスまたは青色ロケータ ボタン/LED を使用して制御できます。

LED	カラー	説明
ディスクドライブアクティビティ（前面プレートの画像では3）	消灯	非アクティブ状態です。
	緑で点灯	ドライブあり
	緑で点滅	ディスクドライブへのかなりの入出力があります。
ディスクドライブの障害（前面プレートの画像では2）	消灯	障害は検出されていません。
	オレンジで点灯	障害が検出されたか、誤ったタイプのドライブが検出されました。
	オレンジで毎秒4回の点滅	ドライブの再構築がアクティブに進行中です。
	オレンジで毎秒1回の点滅	ドライブを視覚的に識別するためのロケータ LED

ボタン

フロントパネルには次のボタンがあります。

- **電源ボタン/LED:** フロントパネルの電源ボタンはデフォルトでは無効になっています。UCS 管理ソフトウェア インターフェイスを介して、またはボタンを押して、再度有効にすることができます。
- **UCS 管理ソフトウェア インターフェイスの場合:** 有効にすると、電源ボタンを使用してサーバを手動で一時的にサービス休止状態にすることができます。このスタンバイ状態からは短時間で再起動できます。ブレードサーバに関連付けられたサービスプロファイルで、望ましい電源状態が「オフ」に設定されていると、電源ボタンまたは UCS 管理ソフトウェア インターフェイスを使用してサーバをリセットした場合に、サーバに必要とされる電源状態が実際の電源状態と一致しなくなり、その後、サーバが不意にシャットダウンすることがあります。



(注) サーバを電源停止状態から安全に再起動するには、UCS 管理ソフトウェア インターフェイスで適切なオプションを使用します。

- **ボタンの場合:** 電源ボタンを押すと、サーバの状態に応じて、サーバの電源がオンになるか、オフになります。
 - サーバの電源がオフになっている場合は、短い時間ボタンを押して放すと、ブレードの電源がオンになります。
 - サーバの電源がオンになっている場合は、短い時間ボタンを押して放すと、ブレードの電源が通常のプロセスでオフになります。または、ボタンを7秒以上押し続けたままにすると、サーバはただちにシャットダウンします。

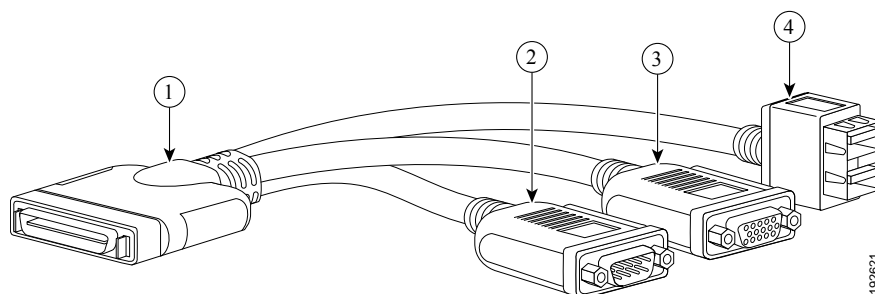
- ロケータボタン：ロケータボタン/LEDを押すと、個々のサーバのロケータビーコンLEDをアクティブにできます。このボタンは、現在のステータスに応じてロケータLEDのオン/オフを切り替えます。

ローカルコンソール接続

ローカルコンソールコネクタを使用すると、ブレードサーバに直接接続できるので、オペレーティングシステムのインストールなどの管理タスクをリモートからではなく、直接実行できます。ポートは、接続で最大 115200 ボーに自動ネゴシエートします。

このポートには、KVM ドングルケーブルを使用して Cisco UCS ブレードサーバに直接接続できます。Cisco UCS ブレードサーバは、DB9 シリアルコネクタ、モニタを接続する VGA コネクタ、およびキーボードとマウスを接続するデュアル USB ポートを備えています。このケーブルを使用すると、ブレードサーバで実行しているオペレーティングシステムと BIOS に直接接続できます。KVM ケーブルは、ブレードシャーシアクセサリキットに標準で付属しています。

図 2: ブレードサーバ用 KVM ケーブル



1	ブレードサーバのローカルコンソール接続へのコネクタ	2	DB9 シリアルコネクタ
3	モニタ用の DB15 コネクタ	4	マウスおよびキーボード用のタイプ A USB 2.0 コネクタ 2 ポート

フロントメザニンストレージモジュールオプション

フロントメザニスロットでは、サーバは次のフロントストレージモジュールオプションのいずれかを使用できます。

- 2 台の 7 mm SATA SSD をサポートする Cisco FlexStorage モジュール。2 台のドライブ用にハードウェア RAID 0/1 を提供するための、12G SAS コントローラチップがモジュールに含まれています。コントローラとブレードのインターフェイスは、PCIe 3.0 です。
- サーバとのインターフェイスが 2、5、および 8 Gbps の PCIe であり、ホットプラグ可能な 7 mm NVMe SSD をサポートする Cisco FlexStorage モジュール。

- 2基のミニストレージ モジュールをサポートする Cisco FlexStorage モジュール（ホットプラグ不可）
 - ミニストレージ モジュール「1」は、2台の M.2 デュアル SATA SSD ドライブを管理するオンボード SATA RAID コントローラチップを含む、SATA M.2 デュアル SSD バージョンです。このミニストレージ モジュール オプションとサーバとのインターフェイスは、PCI 3.0 です。
 - ミニストレージモジュール「2」は、2台の M.2 デュアル SATA SSD ドライブを管理するオンボード SATA RAID コントローラチップを含む SATA M.2 デュアル SSD バージョンのみです。このミニストレージ モジュール オプションとサーバとのインターフェイスは、PCI 3.0 です。

リア mLOM およびメザニン接続

mLOMおよびメザニンカードオプションを使用した背面接続には、複数の設定可能なオプションがあります。

- mLOM カード : UCSB-MLOM-40G-04 または UCSB-ML-V5Q10G
- mLOM カード+パススルー メザニンカード : UCSB-MLOM-40G-04 + UCSB-MLOM-PT-01
または UCSB-ML-V5Q10G + UCSB-MLOM-PT-01
- mLOM カード+現用系メザニンカード : UCSB-MLOM-40G-04 + UCSB-VIC-M84-4P

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。